



探究スキル



教材のねらい

総合的な探究の時間、理数探究、古典探究、地理探究など、新しい高等学校学習指導要領では、探究学習が重視されています。生徒が探究する過程は課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の流れで表現されていますが、こうした一連の学習活動の質を高める資質・能力が情報活用能力です。情報の集め方や発信の仕方は「活動スキル」に位置付けています。一方で、集めた情報を精査したり、比較・関連づけたりする技法や、プレゼンテーションや新聞、動画等、さまざまな形態で考えを表現する際に工夫するための技能を探究スキルに位置付けました。また、探究はその過程について、生徒が見通しを持って取り組むことで主体的なものとなります。探究の計画を立てたり、途中で経過を振り返り、改善点を検討するといったことも、探究スキルには含まれません。高校編の「みやぎ情報活用ノート」では、「仮説の設定」と「議論を深めるための役割分担を考えてみよう」の2点を用意しています。

「仮説の設定」は、設定した課題をより深めるため、集めた情報からもう一步深めていく場面で使用するノートです。1ページ目はこれまで集めてきた情報を確認するために使用することもできますし、このページ自体を集めた情報をメモするために使用してもよいでしょう。2ページ目で仮説を考えます。集めてきた情報を比較したり、整理したりすることを通して、さらに詳しく知りたいこと、予想できることを仮説の形に表します。仮説を検証するには、さらに情報を追加で集めたり、調査や実験に取り組んだりするための計画を立てます。探究スキルの目標でいえば、「B2 読み取り」をした上で「B7 学習計画」の具体化につながる場面です。

「議論を深めるための役割分担を考えてみよう」は、生徒たちがグループで対話する際に使えるノートです。特に課題解決につながるような対話を促すための技法として6色ハット法が紹介されています。解決のアイデアを作り出す話し合いは時間がかかります。単に「話し合いましょう」と投げかけるだけでなく、集めてきた情報をどう評価し、どのように考えているのかお互いの意見を出し合い、新たな提案を見出せるようにする話し合いの進め方がまとめられています。さらに、対話の結果をふりかえり、どのような点がよかったのか、自分はどのような思考が得意なのかを考えるようにしています。探究スキルの目標では、対話による「B3 創造」の機会を通して、学習計画の「B8 評価と改善」につながります。

探究スキルは、1時間の授業で身につくものではありません。探究の過程を辿れるような単元構成が前提となります。その際に、必要となる探究スキルを毎回指導していると、探究の内容を深めることよりもスキルの獲得が目的になってしまいます。総合や探究系の科目だけでなく、普段の教科指導の中でも少しずつ探究的に学ぶ機会を確保し、1つ1つのスキルを身につけさせたり、スキルを活用し、習熟する機会を積み重ねることが大切です。

アドバイザー

東北学院大学教授 稲垣 忠

略歴

文部科学省「情報活用能力調査事業」企画推進委員や、同「次世代の教育の情報化推進事業『情報教育の推進等に関する調査研究 (IE-School)』」委員、同「『教育の情報化に関する手引』作成検討会」委員、経済産業省「未来の教室」実証事業教育コーチなど多数歴任。本教材では、活動スキル・探究スキルを担当。